

筑波大学の耐塩性ユーカリの第一種使用規定承認申請について、平成17年度の申請との対比（筑波大学より提出）

第一種使用規定	今回	前回
	1.なし 2.高さ230cmのフェンスを設置している。コンクリート部は地下68cmまで及び、その下層に碎石層15cmが設けられている。	1.遺伝子組換えユーカリの栽培区画を取り囲むように防風網を設置する。 2.フェンスを設置している。

大項目	中項目	小項目	今回	前回
1.生物多様性影響の評価に当たり収集した情報		1.宿主又は宿主の属する分類学上の種に関する情報	1. Eucalyptus globulus Labill. 2. パルプ用に8～12年で収穫 3. 発根・挿し木繁殖は困難 4. 国内での情報はないが、原産地では雨季(6月から12月)くらいまで開花が認められる 5. 根茎を形成する	1. Eucalyptus camaldulensis Dehnh. 2. パルプ用に5～8年で収穫 3. 挿し木は比較的容易 4. 国内では、一般的に夏場(7～9月)に開花し、秋から冬(9～1月)にかけて結実する 5. 記載なし
1.生物多様性影響の評価に当たり収集した情報		2.遺伝子組換え生物等の調整等に関する情報	1. ユーカリ由来のコピキチン発現プロモーター 2. NPT II遺伝子(カナマイシン耐性)が含まれる 3. pGW23プラスミドベクター(pBI121系) 4. 改編プラスミド pGW23codA 5. なし 6. なし	1. カリフラワーモザイクウイルス由来の35S発現プロモーター 2. ipt遺伝子及びR遺伝子が含まれる 3. pMATプラスミドベクター(pBI121系) 4. 改編プラスミド pMATcodA 5. ウェスタンブロット 6. フローサイトメトリーによる倍数体検討
1.生物多様性影響の評価に当たり収集した情報		3.遺伝子組換え生物等の使用等に関する情報	1. 防風網の設置なし 2. 地下コンクリート部(深さ68cm)では場を取り囲んでいる	1. 防風網の設置あり 2. 地下コンクリート部の記載なし
2.項目ごとの生物多様性影響評価	1.競争における優位性	1.影響を受ける可能性のある野生動植物等の特定	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	1.競争における優位性	2.影響の具体的な内容の評価	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	1.競争における優位性	3.影響の生じやすさの評価	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	1.競争における優位性	4.生物多様性影響が生ずるおそれの有無等の判断	変更なし	

2.項目ごとの生物多様性影響評価	2.有害物質の産生性	1.影響を受ける可能性のある野生動植物等の特定	1. サンドイッチ、鋤込み(発芽率、胚軸・幼根長)	1. 液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、サンドイッチ、鋤込み(胚軸・幼根長)、発芽試験
2.項目ごとの生物多様性影響評価	2.有害物質の産生性	2.影響の具体的内容の評価	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	2.有害物質の産生性	3.影響の生じやすさの評価	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	2.有害物質の産生性	4.生物多様性影響が生ずるおそれの有無等の判断	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	3.交雑性	1.影響を受ける可能性のある野生動植物等の特定	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	3.交雑性	2.影響の具体的内容の評価	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	3.交雑性	3.影響の生じやすさの評価	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	3.交雑性	4.生物多様性影響が生ずるおそれの有無等の判断	変更なし	
2.項目ごとの生物多様性影響評価	4.その他の性質		変更なし	
3.生物多様性影響の総合評価			変更なし	